

実践記録 1-題材2 「等身大の自画像」

小学校5年生

学年のなかよし目標「見直そう自分、見直そう友達の力」

なかよし週間をきっかけに、学年全員で「等身大の自画像」に取り組む。

(1) 友達の輪郭を描こう

①友達とペアになって輪郭を描く場面

「髪の毛がじゃまで顔がうまく描けないなあ。」

「手の指はジグザグでおもしろいよ。」

「友達を上手に描いてあげたい。真剣に描かなきゃ。」等の声。

②輪郭を描いてもらった子どもたち

「けっこう大きいなあ。」

「首の所がくすぐったかった。」

「どんなふうになるか、わくわくした」等、楽しそうに話しながら、鏡を見ては、自分の顔を描き、服をつけて色付け。

(2) 自画像に「いいところ」カードを貼ろう

①友達のいいところを書いたカードを絵の周りに貼る。

『料理が上手だね』『絵がうまいね』『いつも元気だね』と書かれた言葉を読み、「最初は誰もぼくの所に貼ってくれないんじゃないかと思ってドキドキした。貼ってくれてうれしかった。」

②『ハサミを貸してくれてありがとう』『時間を教えてくれてありがとう』等「自分に覚えがないことが書いてあったのでとてもうれしかった。」と内容はごく当たり前のことでも、貼ってくれたことや友達の飾りのない言葉が何よりもうれしい様子。また、「『キャンプの料理係がんばってね』と励ましてもらって嬉しかった。」「『ユーフォニュームがんばって』と金管バンドの仲間から言ってもらった。」等、友達の「応援メッセージ」に嬉々とした姿が見られた。



(3) キャンプでのいいところさがしをしよう（日々新しくなる自画像）

7月、キャンプのビデオを見ながら「キャンプでの友達のいいところ」を探し、いつもと違う色のカードを貼った。

「キャンプファイヤーでのパフォーマンスをがんばったことがたくさん貼ってあってすごうれしかった。」「ウォークラリーで一緒に友達を探したことが貼ってあってうれしかった。」等、自分が努力したことを認めてもらった時、喜びはさらに増していく。

5年生全員で取り組んだ『自画像』は、クラスのわくを越えて、日々進展している。絵の完成時、「『等身大の自画像』はずっと完成しない。みんなが友達のいいところを探すたびに絵が変わっていくからです。」と言った先生の言葉が、子ども達の活動に表れている。